

真夏の祭典「新潟まつり」に100万人超の人出 みなとまち新潟が熱気と歓声に包まれた3日間となりました！

8月4日(金)から6日(日)まで新潟まつりが開催され、踊りやパレード、ラストを締めくくる大花火大会など、新潟の街が大勢の人で賑わいました。期間中は天候にも恵まれたこともあり、3日間の総人出数は100万4000人となりました。多くの市民、企業の皆様からのご協賛・ご協力に厚く御礼申し上げます。



8/5(土) 新潟キラキラパレード



8/4(金) 約1万5千人が参加した大民謡流し



8/5(土) 大勢の観客で賑わうお祭り広場



8/5(土) にいがた観光親善大使もパレードに参加



8/5(土) 市民みこし 宮入り風景



8/5(土) 水上みこし渡御



8/6(日) フィナーレを飾る花火大会



8/6(日) 市内を練り歩く住吉行列

新潟開港150周年に向けて 「信濃川クルーズとミニライブ」

当所では、8月20日、「信濃川クルーズ体験×ミニライブ」を開催し、当所会員や一般市民約180名が、信濃川の水上散歩と音楽を楽しみました。

信濃川クルーズは、ウォーターシャトルで上流の昭和大橋付近から下流の新潟造船付近までを約1時間かけて周遊。船内では、北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所と新潟港湾・空港整備事務所の担当者から、みなとまち新潟の歴史や自然に関するガイドを受けました。

また、万代テラスに設けた臨時乗船場所の前では、ミニライブを開催し、



クルーズ体験を待つ間にミニライブを楽しむ

地元を拠点に活動するアーティストたちが、歌声を披露しました。

当所では、2019年の新潟開港150周年に向けて、引き続き様々な取り組みで機運の醸成を図ってまいります。

新潟・極東ロシア線の 定期便化を要請



ヤクーチャ航空を訪問する県訪問団

8月19日から22日にかけて、新潟県の水口幸司交通政策局長を団長とするロシア極東訪問団が、サハ共和国の首都ヤクーツクにあるヤクーチャ航空の本社などを訪れ、今夏(7月15日～8月22日)の新潟空港発着のロシア極東(ウラジオストク・ハバロフスク)へのチャーター便運航に対するお礼と、今後の定

期便化について要請を行いました。訪問団は行政(新潟県、新潟市)と経済団体で構成され、当所からは小沢謙一総務部長が参加しました。

運航会社であるヤクーチャ航空では、新潟市と姉妹提携を結んでいるウラジオストク、ハバロフスクとの歴史あるつながりをPRするとともに、今年の搭乗率が増加したことに触れ、来年以降の増便及び定期便化を働きかけました。

また、サハ共和国行政府との懇談では、ヴィノクロフ運輸交通省大臣らと面談し、双方による観光客の送り込み増加に向け、互いの観光地を紹介するPR情報の交換を活性化させることで意見が一致しました。

佐渡の国内推薦は見送り 「2019年世界遺産登録」

7月31日に開かれた、国の文化審議会において、2019年の世界遺産登録を目指す国内候補として、大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」が選ばれ、佐渡市の「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」は推薦を見送られました。

当所としては、平成25年の「登録実現に関する決議」やPRグッズを作成するなど、様々な啓発活動を展開していただだけに、非常に残念な結果となりました。

今後は、国から示された課題の解決に向けて取り組むとともに、改めて

2020年の世界遺産登録に向けて活動を進めていくことになります。

磐越道全線開通20周年 記念イベントへ出展

当所では、8月19日、磐越道全線開通20周年を記念して開催された日本高速道路(株)新潟支社主催のイベント(於：デンカビックスワンスタジアムゲート前広場)に出展協力しました。

今回は、アルビレックス新潟×ベガルタ仙台戦に合わせて開催されたもので、両サポーターなどに対して磐越自動車道の利用促進と沿線都市への誘客促進を呼び掛けました。

当所は、顔出しボードの設置や各種観光パンフの配布などを行い、イベントの盛り上げに一役買いました。



当所の顔出しボードなど各種アトラクションが出展